

# イネ縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカの防除対策

## 適切な防除で減収被害を減らしましょう

### イネ縞葉枯病はヒメトビウンカが媒介するウイルス病

#### ● 分けつ期の症状 ●



イネ縞葉枯病が発生すると株が枯れたり、茎数が減ります。発病した株の多くは出穂しないか、出穂しても粳が実りません。ひどい場合は坪状に枯れます。

😞 **被害茎率 = 減収率** 😞

#### ● 出穂期頃の症状 ●



#### ● 防除の対象 ●

ウイルスを媒介するヒメトビウンカです



### ウイルスを媒介するヒメトビウンカの防除対策

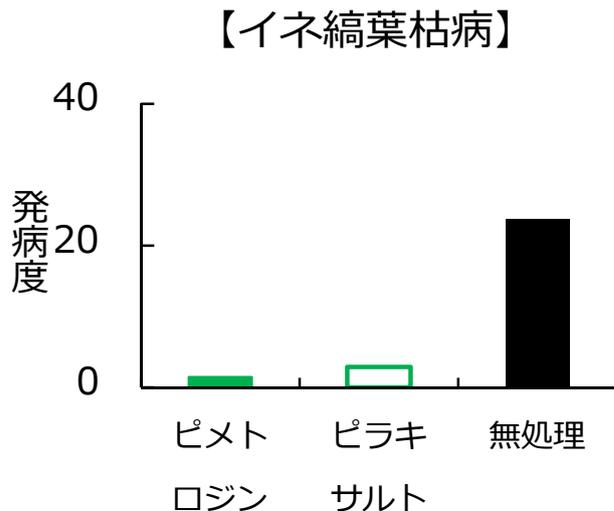
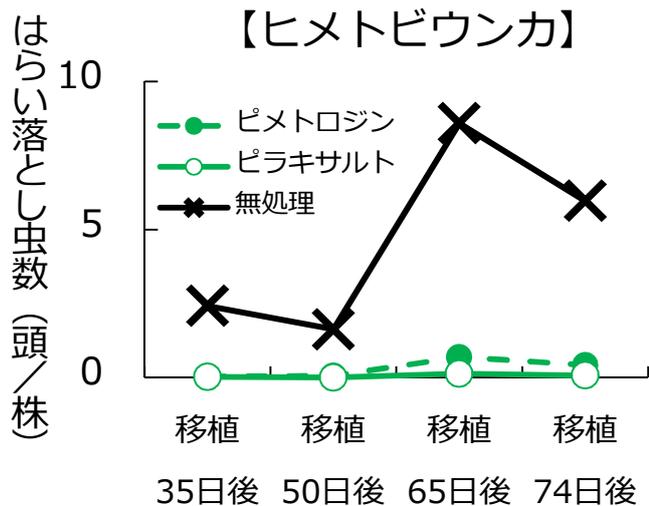
#### ● 農薬を上手に使うって水田の中のウンカを減らしましょう ●

- ▶ ウンカによく効く育苗箱施用剤での防除がおすすめです。防除効果が長い間持続する薬剤(ピラキサルトまたはピメトロジンを含む薬剤)を選びましょう
- ▶ 発生が多いようなら7月に殺虫剤(イソクラストを含む薬剤)を散布しましょう

#### ● 耕種的な防除を追加するとさらに効果的です ●

- ▶ 秋の耕耘や春先の畦畔除草で水田周りに生息しているウンカを減らしましょう

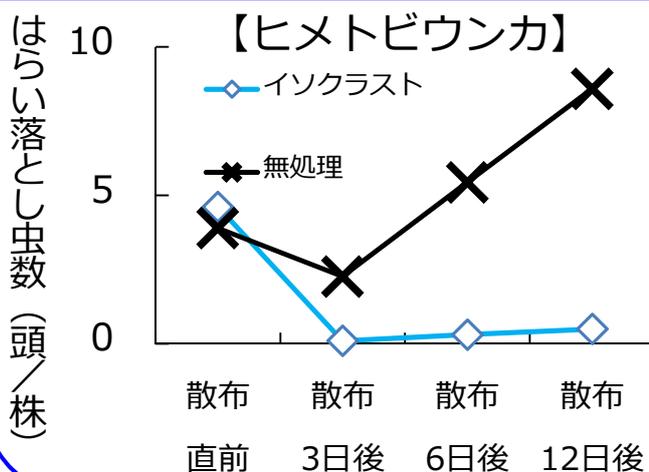
## 育苗箱施用剤（ピメトロジン剤とピラキサルト剤）



・移植当日に50g/箱処理

ピメトロジン剤:ビルダーフェルテラチェス粒剤    ピラキサルト剤:ゼクサロン粒剤

## 本田散布剤（イソクラスト剤）



・150L/10a散布

イソクラスト剤：  
エクシードフロアブル×2000

### 試験場所

どの試験とも湯梨浜町  
6月第1半旬移植

### ○育苗箱施用剤（2019年2月20日現在）

ピラキサルト剤	それぞれの成分を含む育苗箱施用剤として複数の薬剤があり、ウンカ類以外にも鳥取県主要初中期水稻病害虫（いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、チョウ目害虫等）に対して農薬登録されている。
ピメトロジン剤	
注意事項	薬剤を選択する際には農薬登録の内容をよく確認し、各地域の実情に適した薬剤を使用する。なお、移植当日処理より前の薬剤処理については、各農薬の登録内容に従う。

### ○本田散布剤（2019年2月20日現在）

イソクラスト剤	エクシードフロアブル、エクシード粉剤DLがあり、ウンカ類以外にツマグロヨコバイ、カメムシ類に対して農薬登録されている。
注意事項	鳥取県において本剤のカメムシ類に対する効果は既存剤より低く、実用的な防除効果は期待できない。

※育苗箱施用剤、本田散布剤とも薬量が不足すると防除効果が低下するので、規定量を均一に散布